

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00915

研究課題名（和文）20世紀前半における日露・日ソ関係：東アジアにおける秩序の形成と変動

研究課題名（英文）Russo/Soviet-Japanese Relations in the First Half of 20 Century: Formation and Changes of the International Order in East Asia

研究代表者

シュラトフ ヤロスラブ (Shulatov, Yaroslav)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：30726807

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：コロナ禍の時期を除き、日本国内外（旧ソ連地域、韓国など）において史料調査を行い、初年度から毎年国内外の学会や研究会（日本、ヨーロッパ、アメリカ、中央アジア、オーストラリア）で報告し、図書に寄稿したり査読付きの論文を刊行したりして、研究業績は合計20点以上発表した。このように、20世紀前半の日露・日ソ関係の大きな枠組みと地域レベルでの細かい問題を明らかにし、研究成果を国内と国際の舞台において積極的にアピールできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、専ら一次史料に基づき、19世紀末から20世紀前半にかけての東アジア地域における秩序の変動に絶大な影響を与えた日露・日ソ関係の全体像を再検討し、未公開の史料を積極的に活用することにより、本地域並びに相互に与えたあらゆるインパクトを明らかにする目的を持つ。当該時期における日露・日ソ関係の全体像を再検討して多角的に考察することができて、これまで知られざる日露の二国間関係とは限らない側面・諸問題を解明し、学際的な歴史研究を進展させることができた。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to shed a light on the unknown aspects and examine the overall picture of Russo-Japanese and Soviet-Japanese relations, which had a tremendous impact on the changing order in East Asia from the end of the 19th century to the first half of the 20th century, and to clarify the full impact on the region and each other through the active use of declassified historical documents. With the exception of the period of pandemics (COVID-19), a wide field work was held in the archives in Japan and abroad (former Soviet Union countries, South Korea etc.). The results of the study were presented in various conferences, workshops and invited lectures in Japan and on the international arena, contributing to the interdisciplinary historical research.

研究分野：歴史学

キーワード：日露関係 日ソ関係 東アジア国際関係史 ロシア近現代史 日本近現代史 地域研究 外交史 軍事史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

1990年代より、ロシア研究、日露関係史に関わる一次史料の公開が進み、重要な研究も発表され、研究代表者も以前からそれに取り組んできた。一方、19世紀末から20世紀前半にかけて、ロシア帝国・ソ連と日本帝国は、東アジアを舞台に「対立」と「連携」という激変を繰り返し、地域秩序の変動並びに諸国に大きな影響を及ぼしたが、それらの問題を東アジアの国際関係史の中の大きな枠組みで検証する研究は少ない。また、研究代表者は、ロシア革命以降から日ソ関係樹立までの時期を中央レベルで検証したが、地域レベルにおいても日露関係から日ソ関係への転換期を究明する必要性を痛感した。このため、19世紀末から20世紀前半にかけての日露・日ソ関係の全体像を再検討し、極東地域などのローカル・レベルの諸問題を明らかにするために、これまでの研究を踏まえて本研究を実施した次第である。

2. 研究の目的

上記の「研究の背景」に述べられた問題点を克服することであった。とりわけ、(1)日露・日ソ関係を大きな枠組みで検討し、東アジア地域における秩序の変動、そして日露相互に与えた影響を明らかにする。(2)ローカルなレベル(極東地域・サハリンなど)にクローズアップして、日露関係から日ソ関係への転換期を究明する。(3)第二次世界大戦期にも焦点を当て、米国の要素を取り入れ、新たな観点から日ソ関係を検証する。以上をもって、一次資料に積極的に発掘し、それに基づき、当該時期の日露・日ソ関係を多角的に考察する。

3. 研究の方法

(1) 方法論

本研究は、総合的研究手法を通じて、日露・日ソ双方の対外政策を比較分析し、それらにおける両国関係の位置並びにそのインパクトを明らかにするものである。特に、ロシアの対日政策に重点を置きつつ、地域間比較と分野間比較の方法を重視し、帝政期とソ連期のアプローチ、政策立案・実行過程にかかわる各アクターの立場及び影響力を明確にし、20世紀前半における日露・日ソ関係の全体像を、双方の角度から分析するものである。

(2) 包括的な資料調査

本研究は新しい研究領域を開拓するものであり、特に一次史料の調査に重点をおいた。このため、マルチアーカイブ手法を用い、日本国内外において積極的にフィールドワーク・現地調査を実施し、新史料を博捜し、幅広く活用することにした。

(3) 研究体制

初年度から、一次史料を博捜すること、地域間比較と分野間比較の手法の活用、国際的な研究協力、研究発表という3つの課題を推進するために、日本国内の学会・研究会に参加することを目指した。当初はコロナ禍による規制が大きく影響したが、規制が緩和され次第に日本国内外の調査をはじめ、研究会に参加し、国内外の研究者と緊密な関係を築き、最新の研究動向、方法論や史料状況について情報交換を行いながら、グローバルな舞台に通用する研究成果を発表できることに尽力した。

4. 研究成果

コロナウィルスの感染拡大により、海外における資料調査が完全に不可能となったため、当初の研究計画を修正する必要が生じたが、初年度から遠隔で学会・研究会に参加し、国内外の専門家と意見交換をしつつ、多くの研究発表ができた。

また、規制が緩和・解除されてから、海外における積極的な史料調査を再開し、新史料を博捜し、新事実を発見すると同時に、対面でも成果発表に取り掛かった。

資料・現地調査

既述したように、当初はコロナ禍による大きな支障はあったものの、本研究の課題を達成するために、積極的に日本国内外、特に海外(ロシア・旧ソ連の地域)における史料調査を実施し

た。

* 日本では、主に国会図書館、外務省外交資料館やアジア歴史資料センターの資料を取り入れ、大学図書館などで調査した。これにより、ロシア帝国時代並びにロシア革命・内戦期及びその後の期間において日本側の対露・対ソ姿勢、第二次世界大戦の記憶・伝承を考察し、新たな位置づけを提示した。

* ロシア・旧ソ連地域での調査は数回行われた。

まず、ロシアでは、モスクワのロシア国立学術図書館で資料集や伝記などを熟読しながら、資料館での作業を重視した。特に、ロシア外務省のロシア連邦外交文書館（AVPRF）とロシア国立社会政治史文書館（RGASPI）での調査に重点をおき、サハリン問題などを通じて、ロシア革命・内戦期の対日政策を、外務人民委員部や地方代表（駐中代表部、駐日代表部）、政治局などアクターの立場を分析した。

そして、中央アジア（ウズベキスタンとカザフスタン）とカフカス（ジョージア）においてもフィールドワーク・現地調査を実施し、革命期と戦間期の史料を発掘することができた。そして、いずれの地域において、現地の研究者と面談を重ね、意見交換を行った。

以上のように、研究代表者は、一次資料に基づき、ロシアの対日政策に重点を置きつつ、日本の対露・対ソ政策を考察し、帝政期とソ連期の比較分析を行い、20世紀前半の日露・日ソ関係の全体像を再構築しつつ、新たな観点から追究することができた。

研究成果の発表と活用

初年度の2020年から最終年度の2023年度まで、毎年国内外の学会や研究会で報告し、他の研究者と協力しながら、国際舞台において様々な形式で、日本語、ロシア語、英語で研究成果を発表するように努めた。

この積極的姿勢の結果として、多くの業績を残すことになった。具体的に、査読有・共著を含む学術論文・図書（日本語、英語、ロシア語）、招待講演を含む研究報告（日本語、英語、ロシア語）、近年刊行された研究書への書評、となっている。業績リストの通り、研究業績は合計20点以上になり、主なテーマは、20世紀前半の日露・日ソ関係の大きな枠組みと細かい問題（例えば、ロシア革命とサハリン問題）、第二次世界大戦と米ソ・日ソ関係、第二次世界大戦に関する日露両国の集団的記憶、1905-1931における日本とソ連、などである。

以上のように、本研究の成果は日本国内外において積極的にアピールすることができた。

目標達成度及び今後の課題

上記の「研究の目的」に指摘した課題は基本的に達成されたと言える。（1）については日本国内外において積極的に報告を行い、査読付きの論文を英語の論集（図書）に掲載された。（2）についても、幾つかの業績を残し、特に革命期から日ソ基本条約までのサハリン問題を明らかにした。（3）の課題に関しては、アメリカの要素を取り入れつつ、中央アジアの問題も研究テーマに取り入れることができた。

一方、1930年代の諸問題に触れる原稿を発表し、満州事変以降からのソ連の極東政策、並びに第二次世界大戦期のソ連の対日政策に関わる新たな問題提起はできたものの、十分に明らかにしていない。また、コロナ禍により、当初予定されていた史料調査も実施不可能だったため、それを実現させ、上記の研究問題に取り組むことを今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Yaroslav Shulatov, Stuart Goldman	4. 巻 Vol. 35, No.6
2. 論文標題 Friendly Deception: The Soviets devised a top-secret operation to repatriate U.S. airmen downed in Siberia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 World War II	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 シュラトフ・ヤロスラブ	4. 巻 67号
2. 論文標題 ロシア革命とサハリン 日露関係から日ソ関係へ（1917-1922年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 スラヴ研究	6. 最初と最後の頁 59 - 81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Shulatov Yaroslav	4. 巻 33
2. 論文標題 Russia and WWII in Asia: A Long Shadow of the Rising Sun	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Slavic Military Studies	6. 最初と最後の頁 527 ~ 534
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13518046.2020.1845085	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 シュラトフ・ヤロスラブ	4. 巻 58号
2. 論文標題 書評：寺山恭輔編『スターリンの極東政策 公文書資料による東北アジア史再考』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西洋史学論集	6. 最初と最後の頁 94 - 97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 なし
2. 論文標題 X ' : '75	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Russia in Global Affairs https://globalaffairs.ru/articles/skolko-let-pobede/	6. 最初と最後の頁 ネット上
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 シュラトフ・ヤロスラブ	4. 巻 第110号
2. 論文標題 サハリン問題をめぐる日ソ協議 国交正常化の準備段階 (1922-23年)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 77-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 シュラトフ・ヤロスラブ
2. 発表標題 ロシア極東のアジア系住民：朝鮮人を中心に (19世紀後半-20世紀前半)
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター主催 2022年度公開講座『溶解する帝国 - ロシア帝国崩壊を境界地域からえる』、(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名
2. 発表標題 (1942-1945)
3. 学会等名 国際会議 文明のクロスロード15『比較類型論研究のプリズムを通じて、異なる文化、民族性、言語の相互理解』(於タシュケント国立東洋学大学) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 シュラトフ・ヤロスラブ
2. 発表標題 ソ連領に不時着した米軍パイロットをめぐる：第二次世界大戦期の日ソ米関係(1942-1945)
3. 学会等名 「国際シンポジウム 第164回20世紀メディア研究会」(於早稲田大学)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yaroslav Shulatov
2. 発表標題 The Key Rivalry: Russo-Japanese Relations and International Order in Northeast Asia in 1895-1945
3. 学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia, 1893-1953: Concepts and Approaches (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名
2. 発表標題 : (1895-1945)
3. 学会等名 RASA Global Conference (Russian American Science Association) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名
2. 発表標題
3. 学会等名 75 : (Gorchakov Foundation, Russia in Global Affairs雑誌主催の国際イベント(ラウンドテーブル))(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 シュラトフ・ヤロスラブ
2. 発表標題 太平洋戦争とソ連における米軍パイロット
3. 学会等名 日ソ戦争・第二次世界大戦に関する研究会（遠隔）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 シュラトフ・ヤロスラブ
2. 発表標題 20世紀前半の日露関係：東アジアにおける国際秩序の変容
3. 学会等名 早稲田大学ロシア東欧研究所研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名
2. 発表標題 :
3. 学会等名 Lectorium Oriens Tokyo (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名
2. 発表標題 :
3. 学会等名 Lectorium Oriens Tokyo (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yaroslav Shulatov
2. 発表標題 Japan in World War II: the Soviet Perspective
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies (EAJS) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yaroslav Shulatov
2. 発表標題 Japan in World War II: the Soviet View
3. 学会等名 ANU Japan Institute Seminar (Australian National University) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yaroslav Shulatov
2. 発表標題 Japan in the Pacific War: The Soviet View (1941-1945)
3. 学会等名 Waseda Seikei FWS
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yaroslav Shulatov
2. 発表標題 Lost and Found in The Taiga: The U.S. Airmen in the Soviet Union During World War II
3. 学会等名 Virginia Museum of Fine Arts, University of Richmond (招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計5件

1. 著者名	4. 発行年 2022年
2. 出版社	5. 総ページ数 264
3. 書名	

1. 著者名 白木沢旭兎、シュラトフ・ヤロスラブなど	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 512
3. 書名 日ソ戦争史の研究	

1. 著者名 原 暉之、兎内 勇津流、シュラトフ・ヤロスラブなど	4. 発行年 2023年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 456
3. 書名 日本帝国の膨張と縮小	

1. 著者名 など	4. 発行年 2020年
2. 出版社 XXI	5. 総ページ数 320
3. 書名	

1. 著者名 Yaroslav Shulatov, Aglaia De Angeli, Peter Robinson, Peter O' Connor, Emma Reisz, Tsuchiya Reiko	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 276
3. 書名 Competing Imperialisms in Northeast AsiaNew Perspectives, 1894-1953	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------